20年分の「ありがとう。」

家族成人式®

Coming of age ceremony for families

読売新聞社様に「家族成人式®」をご紹介していただきました！

読売新聞 2020年9月26日付

「成人」家族で祝おう

コロナで式典望めず

成人式の前に写真館などで晴れ着姿の撮影をする際、親子で感謝の言葉などをやり取りする「家族成人式」や「家族のための成人式」と呼ばれるセレモニーが広がっている。今年度は新型コロナウイルスの影響で、例年通りの形で成人式を行えない自治体も出てきているため、関心を集めているようだ。（宮木優美）

「いつもありがとう。これからは、ママが幸せだと思うことをたくさんしてね」

7月、東京都小平市の専門学校生、加地月南さん(20)は、しっとりとしたBGMが流れる中、華やかな振り袖姿でスポットライトを浴びながら、母の麻友子さん(43)への感謝状を読み上げた。

麻友子さんは目にうっすらと涙を浮かべ、「成人式が行われるかどうかも分からないので、こういう機会が持ててよかった」。月南さんも「普段は言えない感謝の言葉を伝えられてよかった」とほほ笑んだ。

加地さん親子が参加したのは、関東、中部などで呉服店を展開する「いつ和」（新潟県十日町市）が、都内の結婚式場を借りて行った「家族のための成人式」。成人式の前に多くの新成人が行う「前撮り」と呼ばれる写真撮影の後に、プロの司会や音響、照明を入れ、感謝や励ましの言葉をやりとりする10分ほどのセレモニーだ。同店で振り袖を借りたり購入したりして前撮りを行う親子を対象に2017年から実施している。

コロナの影響で、今年度は例年通りの成人式が行われるかは不透明。夏の開催が延期となったり、会場の分散化やオンライン開催を検討したりする自治体もある。このため、セレモニーへの関心は高く、昨年度より200人以上多い950人が実施予定という。

同社の中西昌文さんは「これまではセレモニーを恥ずかしがって嫌がる人もいたが、今年はそういう反応は少なく、前撮りをするほぼ全ての親子に利用してもらっています」と話す。

読み上げた感謝状を母に手渡す加地月南さん（右）（東京都港区で）

中国地方で呉服店など19店舗を展開する「やしまグループ」（広島市）も、今月から同様のサービスを行う「家族成人式」を試験導入。式を実施した数組の親子から「やってよかった」という反応があったという。今後、本格的に展開していく予定という。

これまで100組以上に「家族成人式」を行ってきた茨城県龍ヶ崎市の「佐沼屋呉服店」社長の石島通孝さんは「成人式は、親子だけで写真館で撮影できる最後の機会となる家庭も多い。自治体の成人式とはまた違った、いい思い出となるはず」と話す。

5年前から全国の呉服店や百貨店などで「家族成人式」の出張サービスを行ってきた「京都プロデュース」（京都市）社長の井口久勝さんは、同窓会のようになっている現在の成人式とは別に、家族だけで祝える場を提供したいと取り組んできた。「家族成人式は、子にとっては20年間育ててもらった両親に感謝を伝える場で、両親にとっては子育ての卒業式。無事に成人を迎えられたことを喜び、家族の絆を確認する機会として広がってほしい」と話す。

両親に感謝◆子育て卒業　呉服店など各地で企画

「自治体主催」にとらわれず

現在、全国各地の自治体で行われている成人式は、戦後間もない1946年に埼玉県蕨市で行われた「青年祭」を発祥とする説が知られている。戦前の30年代に名古屋市で行われていたことを伝える新聞記事もあるが、いずれにせよ、戦後になってイベントとして各地に広まったもののようだ。

民俗学者の室井康成さんによると、「20歳で成人になるという認識は、元服のような習俗に基づくものではなく、戦前の徴兵制が満20歳の男子を対象としたことや、戦後に広がった自治体主催の成人式によるもの。行政によってつくられた基準でしかない」と説明する。

今年度はコロナの影響で、これまでと同様の成人式が行えない地域があるかもしれないが、室井さんは「成人式自体は日本の伝統とは直接関係ないもので、今までのやり方にこだわる必要はない。新しい祝い方を考えていけばよいのでは」と話す。

くらし 家庭

ぷらざ

ペンだこ消えぬよう 手紙書こう

子どもの時から右手中指の側面に大きなペンだこが堂々とあった。先日、何げなく手を見たら、ほとんど目立たなくなっていることに気づいた。

幼稚園の頃から絵や字を書くことが大好きだった。小学生から高校生まで勉強用ノートに大きくしっかりとした文字を鉛筆で書いていた。当時盛んだった文通では便箋に文字を書く楽しさを覚えた。おかげで指にペンだこができた。社会人になっても文字を書くことは生活の一部で、ペンだこの痛みは書き物をした充実感でもあった。

時代の流れでワープロを経て、パソコンが普及し、仕事では書類を手書きすることがほとんどなくなった。大人になってからのペンフレンドや友人への手紙は、いつの間にかメールやLINEでのやりとりになり、ペンだこにペンが当たる時間が激減した。

ペンを持つ時間を最近、とても懐かしく感じた。慌ただしい日々に流されて不義理をしている方々に手紙を書こう。私の指には、おしゃれな指輪よりもペンだこが似合うとしみじみ思っている。

（千葉県木更津市・青木恵子 63）

無料で結婚式 コロナ延期カップルに

新型コロナウイルスの感染拡大で結婚式を延期するカップルが相次ぐ中、奈良市の「ディライト」などブライダル関連5社が、東京、大阪、福岡などの計19式場で無料で式を挙げられるサービスを始めた。挙式をキャンセルしたり、式場が倒産して挙式できなくなったりしたカップルが対象で、今年12月末まで。

ディライトによると、キャンセル料を巡って式場とトラブルになったり、コロナの感染拡大を懸念する周囲の意見などで挙式を断念したりするケースが頻発。「家族の絆を再確認できる式の魅力を発信したい」と企画した。

無料になるのは、人前式、オンラインでの打ち合わせ（1回）、衣装。披露宴を開く場合は、以前の契約で払ったキャンセル料や内金分（上限30万円）を割り引く。

問い合わせは、ディライト（0742・27・0680）へ。

人生案内

機嫌損ねた母 黙るしかなく

20代の女子大学生。母親の機嫌が悪い時にどう接したらいいかわかりません。

ご飯を食べている時など状況に関係なく、返事や態度が気にくわないなどの理由で怒り出します。仕事に出かけた父親に関することで、怒りの矛先を私やきょうだいに向けてくることも。ご飯の時に母親の機嫌が悪くなると、私は箸も進まず吐きそうになるのを我慢しています。

小学生の頃から、早朝や深夜に母親がどなり始めると聞くのが嫌で、布団にくるまって待ちました。今も、怒り出したら部屋にこもって距離を置くのですが、「部屋にこもってはっかり」と怒ります。反論しても「社会で通じると思うのか」などと返されるので、私は黙るようになりました。

機嫌が悪い時の母親は、相手が嫌なことも平気で言葉にし、態度に出します。これは普通のことなのでしょうか。（大阪・T子）

海原 純子（心療内科医）

母親に対しては、「こうあってほしい」という思いがありますよね。感情をコントロールできて、家族の人格を大事にする人であってほしいという理想像を誰しも持っています。

でも実際には、そうした理想の母親はどこにもいないでしょう。母親は一人の悩み多い女性でもあるのです。その現実を受け入れて、母親と大人同士の人間関係を構築しようと気持ちを切り替えてみては。

あなたの母親は心にたまったうっぷんやストレスを子どもに向けているのでしょう。あなたは一方的に感情を抑えたり、黙って部屋にこもったりするのではなく、母親に対して感情的にならずに、冷静かつ理論的に意見を伝える技術を習得することが必要です。

「アサーティブ」というコミュニケーション方法を学ぶことをお勧めします。アサーティブとは、相手の気持ちも尊重しながら、自分の気持ちや意見を伝えることです。相手を服従させるのではなく、相手に服従するのでもなく、逃避や妥協をするのでもありません。どなったり、黙って我慢したりするのではなく、穏やかに主張するコミュニケーションの方法です。

これを身につければ、社会に出て生活する上でもきっと役に立つでしょう。